

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	28 / 1984 / 6-13
タイトル	青森市内のプラナリア
著者名	山田祥子・高橋真紀子・岡本純・鎌田卓

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

青森市内のアナリア

去年に引き続き市内のアナリアを調査しました。しかしどこへ行っても去年調査した所はアナリアが減っているのです。(私達の調査した所が悪いのでしょうか?)

田代川... ニコは去年よりまたヒドク多くアナリアはほどんどいません。夏になるとたぬい水温がおかしなところなのです。正にアマツツギアツツギアとはおかしな感じです。

月見野... 去年の春は5種類も採集することができたので夏は3つずつとナメクジとシジメだけ採集してきました。今年は雪が降ったためのもので6月に初めて行ってみました。3つずつを採集したためのものであまりおかしな感じでした。何か環境に変化がおきているのでしょうか?

野内川... ニコだけは相変わらずナメクジとシジメを採集しました。でもよくよくとみると去年より少しは減っている感じがします。今年は去年のように砂の上を歩いているアナリアにはお目にかなう感じがします.....

今年は今まで行ったことのない田代川 権内川の方にも行ってみました。でもやはり今年と二の川でもナメクジとシジメが多いのです。他の種類に比べておかしな感じが少ないナメクジとシジメが多いのです。実験室の「ナメクジ」にもナメクジとシジメはいません。レポートは少ないのですがレポートの行ったことのない新しい場所なので今年と比べて様子がおかしいと思います。

冬には田代川のレポートも.....

アラナリアの採集

山田祥子、高橋真紀子、その他数名

・時 昭和59年 5月 27日

8:00 ~ 11:00 a.m.

・場所 辺田貝沢上流 (PH 5.5)

- ・今年度初のアラナリアの採集でした。実験を行うための個数の確保を(最低50匹)目的としました。

今年の冬に残りの数10匹を越させようとして、努力はしたのですが、山谷先輩(3代卒業生)の後を当時1年の我々で引き受けたこともあり、また未熟で、とうとう全部死んでしまう、という結果になってしまいました。そのため新入生に奥物を見せることもできない状態でした。

- ・川の状態は、流れが速く、石も小さいのなら大きいまで、いろいろなタイプの石がありました。光があまりあたらぬ所では、石に水苔が少々生えていて、一般にぬるぬるした石が多かったです。

初めは川の中央の流れがゆるい所の中くらいの石を探してみました。わりと深い所なので、1m四方くらいでも、ほんの2、3匹しか採れないような始末でした。

次に、下手な石の所を探してみました。やはり、特別多く

は採れませんでした。この時点での採集量は20匹くらいでもしなしたら、たくさんはいないのではないかと疑問を持ちました。そこで、こゝとは川のふちのほとんど流水のない小石が多い所を探してみました。あまり期待はしていませんでしたが、おきおはすとたくさん石についていました。

気がついたことは、大きな石や、小石でも流れがある所ではなくても、やはり去年のクダリ沼同様、ふちの所にいるようでした。

結局 ナミウスムシ...71, カスメウスムシ...1, ミヤマウスムシ...1, 不明...1 ということでした。

目標の50匹を上回ったので、よかったですと思っています。

(長さ別の個体数は最後に記載)

- 種類別で見ると、ナミウスムシはこのくらいで十分なのですが、カスメウスムシ、ミヤマウスムシをもう少し見つけられたら、後悔が残りました。残念ながらイヌミオオウスムシは発見できませんでした。

ナミウスムシ71匹のうち、1匹は全身が赤く染まっています。これは何が原因なのでしょう。食物のせいだとすると、いったい何を食べていたのでしょうか。1匹だけ赤い、というのがどうもつかぬのです。

我々はそこまで調べることができませんでした。また課題が残ってしまったようです。

それから、不明1のことですが、これはカスメのおよではあ

でも、目が2つはつきりと見えているし、ミヤマのような耳葉の
で、ほりはなく、ちこんでいて、なんとも判別がつきにく
く、今もってほきりと区別はついていません。

- 全体的に気がついたことは、近年、自然を楽しむ人が増え、そ
れは大変良いことだと思っておりますが、マナーが悪く、実際、マ
ハコの吸い殻や、空き缶が川の中に落ちていました。
いくら川をきれいにするボランティアをしても、これでは死ん
でしまっで減るに違いありません。

私たちのカンカにぶく、たくさんボランティアを発見できな
か、たのなもしりませんが、このような理由で採れなかったこ
とは、大いに考えられると思います。

- 最後に、いしょに見つけてくれたみなさま、どうもありがとう
ございました。こころうさまです。

雑談 ですか...

初めて行った辺田貝沢。うわさときいていたとおり、
とても道がきびしかったです。

特にあのでこぼこ、かたかたした道は、ほきり
言ってモトクロスでした。(よく自転車は、二輪小はな
たあ...)

でも、汗を流し、つらい思いをしたあの休けいは、
すばらしいものであります。(ちょっと日光が強すぎた

けれども…)

このような自然の中にいることは、何と幸せなことな!
みんな私も成長してきたのでしょうか…。まわりの
世界もよく見えるようになるまで…!

P.S...

後でわかったことなのですが、アラカリアは「糸ミズ」
も食べるそうなんです。

それを聞きつけた我がアラカリア班はさっそく糸ミズを
与えてみました。すると、やはり食べました。食べられた糸
ミズといえは、赤い色素がなく白くなっていました。
(もちろん死んでしましますが) よって、このホウトで紹介した赤
いアラカリアは、糸ミズを食べたのではないかと推測
できることがわかりました。

では最後に種類別個体数の報告をします。

[cm...匹]

◦ ナミウスムシ

0.5... 1	0.6... 2	0.7... 2	0.8... 6
0.9... 2	1.0... 6	1.1... 8	1.2... 7
1.3... 9	1.4... 6	1.5... 5	1.6... 4
1.7... 5	1.8... 2	1.9... 2	2.0... 0
2.1... 1	2.2... 1	2.3... 1	2.4... 1

計 71匹

平均 1.27cm

◦ カスメウスムシ

1.0... 1

◦ ミヤマウスムシ

1.0... 1

◦ 不明 1.8... 1

合計 74匹

by Makiko

〔横内川〕 6月3日 ☺ 高橋真紀子 山田祥子 田本純 鏡田卓 ほか。

二日は 新入部員の 歓迎会でした。6月3日の予定が 悪天候のせいでも 遅れしよったしです。横内川は、おは初めの川です。佐生は二日までに 実験室の アナリアシカ 知りなかつたのです。あの石を ひきかきしよいた時 アナリアシカ をひいた時の 感動を 知りなかつたのです。(私たちが はじめ アナリアシカを 採集した時 の 感動は 忘れなないのです...) あの感動を せよ 佐生にも 味わしてほしいと思ひました。

Data

W. temp. 11.2°C pH. 6

ナミアズムシ

0.5 [cm] ——— 3 [個体]	1.7 [cm] ——— 9 [個体]
0.7 ——— 2	1.8 ——— 12
0.8 ——— 7	1.9 ——— 1
0.9 ——— 1	2.0 ——— 6
1.0 ——— 6	2.1 ——— 5
1.1 ——— 5	2.2 ——— 5
1.2 ——— 7	2.3 ——— 4
1.3 ——— 6	2.4 ——— 1
1.4 ——— 11	2.6 ——— 1
1.5 ——— 10	2.7 ——— 1
1.6 ——— 6	2.8 ——— 1

計 110 個体 平均 1.64 [cm]

ミヤマアズムシ

1.0 [cm] ——— 1 [個体]

ここで川の様子を説明してみましょう。…… 深さ60cmくらいで流石は少し速めです。川底は丸くさまざまな石が敷き詰められています。アサナリは普通本流よりも支流の流石の多い所に生息しているのだ。この場合例外としてこの川はなぜか。why?

ナミウスミシの採集された所は岸の方が多いです。その中でもコナヒトケ住んでいる石の多いまたは所に多くいます。アサナリの中ではナミウスミシが流石に強いということの証明にはなっているのでしょうか? 距離20cmくらいの石には5~10個体もついているのもありました。今の川の水温は5~8℃くらい川は冷たいのでアサナリは横内川は11.2℃。温度が高いのでアサナリの成長に影響しているのでしょうか? 10~24cmくらいになり大きくなるとアサナリは採集されました。

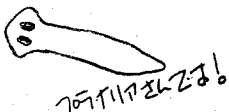
ミナウスミシが1個体採集されたわけですか。アサナリは1個体採集された所は普通他に5~10個体くらいは採集されるのだ。なぜか1個体だけというものはありますか?

お気づいたことは再発中のアサナリは少ない多かったことです。雪と氷で傷ついたので今が分裂に向かっている時なのによくいれました。…… 来年は野外観察と室内観察を平均させてアサナリの分裂についてもっと詳しく調べていきたいと思っています。

この時はアサナリと関係ないことも手元でくちらう。……

とやらを採集してしまえ。

— End —



山田祥子 さん。